

JA全厚連情報



加倉井氏旭日中綬章祝賀会の様子

目 次

- 第4回 日本地域医療学会 学術集会 開催のお知らせ 1
- J A静岡厚生連の経営実態を踏まえた要請等
上川陽子 衆議院議員（静岡1区）との面会 3
- 農協の発展や地域医療の維持等に尽力
加倉井豊邦氏旭日中綬章受章祝賀会を開催 5
- 令和6年度臨時総会を開催
令和7年度事業計画を承認 10
- 女性の健康・理解促進セミナーを開催 12
- 特定看護師及び専門・認定看護師の運用について研修
厚生連特定・専門・認定看護師部門応援プログラムを開催 14
- 内部統制と監事の役割について等について研修
常勤監事セミナーを開催 17

・通信員だより

- 防災訓練を行いました（平鹿総合病院） 18
- パシエントハラスメント対策について（J A秋田厚生連） 19
- 行方地域における医療講演会開催（総合病院水戸協同病院） 21
- フェアで健康相談（J A茨城県厚生連） 22
- 医療従事者を激励（茨城西南医療センター病院） 23
- 第50期生が卒業（土浦協同病院附属看護専門学校） 24
- 大規模災害訓練を行いました（相模原協同病院） 25
- 事務部発表会（相模原協同病院） 26
- 第61回 市民健康教育公開講座を開催します（相模原協同病院） 27
- 第39回市民公開講座を開催しました（伊勢原協同病院） 28
- 第17回 保健福祉センター学術集会 開催（保健福祉センター） 29
- J A全農長野県本部から福祉用車両を寄贈いただきました（J A長野厚生連） 30
- 災害時訓練（J A静岡厚生連静岡厚生病院） 31
- J A静岡厚生連 看護専門学校 卒業式（浜松厚生看護専門学校・するが看護専門学校） 32
- 「健やかな幸せづくり」をサポート『J A健康フォーラム 2025 開催』（J A愛媛厚生連） 33
- 九州地区厚生連共励会の開催（J A熊本厚生連） 35
- 「健康経営優良法人 2025」認定（J A熊本厚生連） 36



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: kanri@ja-zenkouren.or.jp
(事業管理グループ)
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 歸山 好尚



J A厚生連



第4回 日本地域医療学会 学術集会 開催のお知らせ

開催日：2025年10月11日（土）・12日（日）

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟県新潟市）

●新潟での開催が決定しました！

日本地域医療学会は、「地域医療を守る病院協議会」が中心となって設立された団体です。学術集会を開催しており、第1回は令和4年2月に全国国民健康保険診療施設協議会が、第2回は令和5年12月に全国自治体病院協議会（志摩市民病院）が、第3回は地域包括ケア推進病棟協会（南砺市民病院）が主催者となっています。第4回となる今回はJA全厚連が協力団体となり、JA新潟厚生連 あがの市民病院の藤森勝也先生を学会長として開催されます。

地域医療に関わる皆さまの交流と学びの場として、ぜひご参加ください。

●参加申込について

参加申込の受付は、2025年4月上旬より開始予定です。

詳しくは、下記の公式ホームページをご覧ください。

日本地域医療学会 学術集会ホームページ

<<https://www.jach.or.jp/4gakujiyutu/>>

●宿泊に関するご案内

開催当日と同日に新潟マラソンの開催も予定されています。

そのため、宿泊施設の予約が取りにくくなったり、料金が上がる可能性があります。

ご参加を検討されている方は、できるだけ早めのご予約をおすすめします。

地域医療のこれからを、一緒に考える2日間。

たくさんのご参加をお待ちしております！

地域で学び 地域に活かし みんなで育み紡ぐ 未来希望の 地域医療



トキ



朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

第4回 日本地域医療学会 学術集会

会期 2025年10月11日(土)・10月12日(日)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
新潟市中央区万代島6-1

学会長 藤森 勝也 JA新潟厚生連 あがの市民病院長

URL <https://www.jach.or.jp/4gakujuutu/>



佐渡金山



一般社団法人日本地域医療学会
Japanese Association of Community Healthcare

第4回日本地域医療学会 学術集会ポスター

J A 静岡厚生連の経営実態を踏まえた要請等 上川陽子 衆議院議員（静岡1区）との面会

J A 静岡厚生連は、2月26日（水）、衆議院第二議員会館において、自由民主党の上川陽子 衆議院議員と面会し、同厚生連の経営状況を説明するとともに、地域医療の確保のための支援を要請した。面会には、静岡厚生連の荒田庄治 代表理事理事長及び新聞昌哉 常務理事並びに全国厚生連 前田俊範 参事らが出席した。

静岡厚生連の4病院は、公的医療機関として医療の維持・確保に取り組み、地域医療の最後の砦として機能しているが、物価高騰等により病院経営が非常に厳しい状況に置かれていることから、令和8年度の診療報酬改定においては、物価・賃金の上昇に適切に対応できる仕組みの導入等について支援を求めた。

上川議員は「厚生連病院が、地域医療に十分な役割を發揮していることは承知している。これらの病院が、経営改善に取り組んでいるにもかかわらず、医業費用の増加や人材不足などで立ち行かなくなることのないよう、行政がしっかりフォローしていくことが重要。」との理解を示された。

面会出席者

静岡厚生農業協同組合連合会

代表理事理事長	荒田 庄治
常務理事	新聞 昌哉
企画課長	井口 雄希

全国厚生農業協同組合連合会

参事	前田 俊範
事業運営支援部	黒羽 幹樹



上川陽子 衆議院議員との面会の様子

農協の発展や地域医療の維持等に尽力

加倉井豊邦氏旭日中綬章受章祝賀会を開催

本会は、3月4日に東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鳳凰（東中）の間」にて経営管理委員会の元会長 加倉井 豊邦 氏の旭日中綬章受章祝賀会を開催した。

自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」の関係議員を含む加倉井氏所縁の国会議員、JAグループからはJA全中、JA全国連をはじめ厚生連及び関連団体等から約100名が出席した。

加倉井氏は、昭和63年に地元の明野町農協の組合長に就任されており、平成8年には北つくば農協の代表理事組合長へ、また、平成11年6月には同農協の会長に就任された後、平成23年には茨城県農協中央会に就任するとともに、茨城県農協五連会長に就任されておられます。当時は、東日本大震災と福島第1原発事故の直後で日本経済が混乱する中でしたが、農業者が再生産可能となるよう被害賠償金の早期支払いに向けた調整や風評被害対策を率先して行い、農家の経営再建に尽力されました。

平成26年からは、全国厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長に就任し、診療報酬・介護報酬の改定をはじめ医療機関の消費税負担の解消などの難題において、持ち前の行動力を発揮し、税制改正要望に取り組むとともに要請活動に奔走されました。

平成27年には、全国農業者農政運動組織連盟の会長に就任されており、TPP交渉や農協改革などの議論の現場に立つ中で、農業者の不安の声を汲み取り、国内農業を守るべく政治活動を展開するなど、農政運動のリーダーとしての手腕を発揮されました。

祝賀会は、主催者を代表して本会の長谷川 浩敏・代表理事会長が挨拶に立ち、続いて来賓として、山野 徹・JA全中会長、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」会長代理の野村 哲郎参議院議員、同幹事の上月 良祐参議院議員が挨拶に立ち、加倉井氏は、課題が山積する中において、医療業界としっかり連携するなど卓越したリーダーシップを発揮することで、政府や自民党に対する要請活動にも取り組んでこられた功績を称えた。

なお、祝賀会当日は、衆議院本会議が開催されておりましたが、散会後に多数の衆議院議員の先生方が駆けつけていただき、森山 裕自民党幹事長、齋藤 健先生、林 芳

正官房長官、額賀 福志郎衆議院議長、宮下 一郎「農民の健康を創る会」幹事長、葉梨 康弘先生並びに永岡 桂子先生ほか、ご出席いただいた議員の皆様から祝辞を賜った。

祝賀会は、来賓の挨拶の後、宮腰 光寛「農民の健康を創る会」前会長の乾杯で懇親の場がスタートしました。

祝賀会では、同時期にともにご活躍された奥野 長衛・JA全中元会長からも祝辞を賜った。

加倉井氏からの御礼の挨拶では、JA全厚連の会長に就任した平成26年当時の医療を取り巻く環境を振り返り、「全国的な医師・看護師不足や診療報酬・介護報酬の引き下げに起因する厚生連経営への影響など厳しい状況であった中、厚生事業が抱える問題点の一つ一つに真摯に取り組み、その解決に向けた道標を的確に示すことで、地域医療の維持・発展に専心精励して参りました。食と医療はますます大切になっており、このような時こそJAグループが心を一つに役割を果たすことを念じております。私も微力ながら「協同の理念」に精進を重ねてまいる所存である。」と述べた。

最後に、八木岡 努・JAグループ茨城五連共通会長の発声で万歳三唱が行われ、祝賀会は盛会のうちに閉会した。



森山裕先生 挨拶



林芳正先生 挨拶



額賀福志郎先生 挨拶



宮下一郎先生 挨拶



齋藤健先生 挨拶



宮腰光寛先生 挨拶



万歳三唱

出席者名簿

所属	氏名	選挙区
衆議院議員	森 山 裕	鹿児島4
〃	額 賀 福志郎	茨城2
〃	林 芳 正	山口3
〃	齋 藤 健	千葉7
〃	宮 下 一郎	長野5
〃	葉 梨 康 弘	茨城3
〃	永 岡 桂 子	比例・北関東
〃	武 部 新	北海道12
〃	国 光 あやの	比例・北関東
〃	田 所 嘉 徳	比例・北関東
参議院議員	野 村 哲 郎	鹿児島
〃	上 月 良 祐	茨城
〃	藤 木 眞 也	比例区
〃	山 田 俊 男	比例区
〃	星 北 斗	福島
〃	加 藤 明 良	茨城

令和6年度臨時総会を開催

令和7年度事業計画を承認

3月5日に東京・大手町・JAビル「401会議室」において、臨時総会を開催した。総会の開会にあたり、長谷川浩敏 代表理事会長が挨拶をした後、来賓としてご出席いただいた山野徹 JA全中代表理事会長より祝辞をいただいた。

議事に入り、第1号議案「第11次3カ年計画の設定に関する件」、第2号議案「令和7年度（第78年度）事業計画の設定に関する件」、第3号議案「令和7年度経費の賦課及び徴収方法に関する件」、第4号議案「令和7年度役員報酬に関する件」を上程し、いずれも承認された。



挨拶をする長谷川浩敏・代表理事会長

○JA全中山野会長のご挨拶

JAグループ厚生事業が、地域医療の中核的機関として、組合員・地域住民の健康的な生活のために尽力されていることに敬意を表す。

農業現場では生産資材価格の高騰・高止まりに対応した適正な価格形成が大きな課題の一つ、厚生連病院においても、光熱費や機器・資材等の価格高騰が経営を圧迫していると伺っている。



祝辞を述べる山野徹・JA全中代表理事会長

これら厚生連・地域医療を取り巻く諸課題については、自民党議員連盟の「農民の健康を創る会」に要請等されているが、本会としても税制改正要望などの農政活動に取り組んでいく。

また、昨年10月には、第30回JA全国大会を開催し「JAグループの存在意義」や目指す姿の実現に向けて5つの取り組み戦略を決定した。全厚連においては、組合員の

ゆたかな暮らしの実現に向け「暮らし・地域活性化戦略」として、組合員・地域住民の健康増進や公的医療機能・高齢者福祉の機能発揮をお願いします。



進行をする福本博之・JA兵庫厚生連代表理事会長



挨拶をする神農佳人・副会長理事

女性の健康・理解促進セミナーを開催

第30回全国JA大会では、JAグループとして健康経営に取り組むことが決議されており、組織が職員の健康を意識し身体や精神の不調を予防することが、業績や組織価値の向上、人材獲得につながるものとして、JA厚生連グループでも積極的に取り組み、またこの取組みを支援することとしている。

本会では令和6年9月に健康企業宣言を行い健康経営に組織的に取り組んでおり、その一環として、3月10日に役職員を対象とした標記のセミナーを東京都農林漁業団体健康保険組合と連携し、オンラインで開催した。

テーマは「プレコンセプションケアを含む働く女性のライフステージに応じた健康課題と職場として配慮すべきこと」とし、女性の健康課題への造詣が深く、日本で初めて「プレコンセプションケアセンター」を立ち上げた国立研究開発法人国立成育医療研究センター 女性総合診療センター 女性内科 診療部長の荒田尚子先生に講師をお願いした。

セミナーには本会役職員21名（男性15名、女性6名）に加え、東京都厚生連から2名が参加した。

今回のセミナーを通じて、プレコンセプションケアのような新しい課題や、プレゼンティーズムに関わる月経痛やPMS（月経前症候群）、更年期障害など、健康経営において注目されている女性の健康課題への理解を深め、職場の仲間として配慮すべきことを学ぶことができた。

今後も健康経営に関するセミナーを開催する予定としており、会員厚生連からの参加も呼びかけていく。

荒田尚子（Arata Naoko）先生 略歴

1986年 広島大学医学部卒業

1986年 広島大学医学部附属病院内科研修医

1987年 慶應義塾大学医学部内科研修医を経て内科学・腎臓内分泌代謝科助手

1995年 横浜市立市民病院内科（糖尿病内科）

2001年 米国マウントサイナイ医科大学内分泌糖尿病骨疾患科留学

2004年 国立成育医療研究センター総合診療部を経て2010年より現職
日本内科学会認定内科専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医・評議員
日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医・評議員
日本甲状腺学会監事・甲状腺専門医・評議員
日本糖尿病・妊娠学会理事・理事
日本糖尿病・妊娠学会「糖尿病と妊娠にかかわる科学的 根拠に基づく医療の推進プロジェクト」基盤事務局責任者
専門は妊娠に関連した甲状腺疾患・糖代謝障害

次世代を担う健全な子どもの出生と成長も考慮した“女性医療”を内科の立場から提供しており、2015年には日本で初めての「プレコンセプションケアセンター」を成育医療研究センター内に立ち上げている

著 書 『プレコンセプションケア』（編集 荒田尚子 三戸麻子 岡崎有香 メジカルビュー社 2024年3月28日刊行）



研修のようす

特定看護師及び専門・認定看護師の運用について研修

厚生連特定・専門・認定看護師部門応援プログラムを開催

「厚生連医療スタッフ応援プログラム」は、厚生連病院の医療スタッフが抱えるテーマについて、部門別の講演やディスカッションによる情報共有を含め、現場における課題等の解決の一助となるような場の提供を目的としている。

3月11日、厚生連特定・専門・認定看護師部門応援プログラムを開催（WEB）し、40 厚生連病院の看護部及び9 厚生連の本部職員など144名が参加した。

同応援プログラムでは、特定看護師及び専門・認定看護師の運用をテーマとし日本赤十字社 徳島赤十字病院看護部長 庄野 まゆみ 氏から「専門・認定看護師の育成・活用について」の講演が行われた。また、厚生連からは、JA長野厚生連 富士見高原医療福祉センター統括看護部長 西村 妙子 氏の「特定行為看護師の養成の経過と活躍」及びJA愛知厚生連 江南厚生病院看護部長 片田 仁美 氏の「特定行為研修修了生の活用をどうする？」をテーマとして講演が行われた。

庄野氏は、専門・認定看護師の育成・活用への取り組みに関し、自院の教育体制や事例の説明の中で、専門・認定・特定看護師チーム会議を5月、10月、1月、3月に開催し、個々または組織としてやってほしいことのすり合わせを行っている。加えて、専門・認定・特定看護師活動報告会を年1回開催し、全職種を対象として1年間の取り組み内容を発表すると説明した。講演では、現状の課題として、①人材の育成（スペシャリスト複数体制の整備）、②職場環境の整備（（1）業務負担の軽減、（2）活動時間の確保）の説明があった後、「ヒトへの投資をして患者さんへ還元していくことを、これからも考えていきたい」と述べた。

西村氏は、特定行為看護師を養成してきた経過として、研修中の支援体制、同看護師が活躍するための支援体制について具体例を交えて報告を行った。同看護師に期待することとして、①質の高い看護実践力を発揮する“モデル看護師”としての活躍、②看護師教育への参画、③リーダーシップの発揮、④自立したスペシャリストとしての成長等を挙げ、自律性を発揮した同看護師の行動が活躍の仕組み構築につながったとの認識のもと、「特定看護師の専門性を発揮した活躍は、医師の負担軽減だけでなく、看護実践の質の向上やスタッフの育成に貢献している」、「質の高いアセスメント能力、臨床推論

の知識を持つ特定看護師が活躍することで、看護師の倫理的思考や看護実践力の向上につながる」と述べた。

片田氏は、特定行為看護師が必要となる背景を踏まえ、特定行為研修修了生の活用について直面している問題、実施している支援の取組みについての報告に加え、病院組織としての医療の質向上に向けた体制整備や組織横断的活動について説明した。今回は、これまでの経験を踏まえ、その運用として、「①自院を取り巻く状況を把握し、目指すべき姿を組織とすり合わせる、②やみくもに養成するのではなく、必要な区分・行為は何かを明確にする、③特定行為研修修了生は何かできる人なのかをあの手この手で広報する、④修了生の活動報告を定期的に行う、⑤数字でデータを示したいが、できないときは事例でもよし、⑥修了生が活動しやすいように管理者として、組織として何かできるか考える、伝える、そして実践する」と述べた。

参加者からは講演内容について、「管理者からの課題・問題点やその対応方法等であり、自部署の活用や今後の検討材料になることから、今回のような取組みは非常にありがたい」、「応援プログラムということで、看護管理者だけでなく、特定看護師及び専門看護師、認定看護師も参加し、自らできることを考えるいい機会となった」、「有資格者の活用法について、様々な病院の実際を知る機会になった。参考にしたい」等、多数の感想が寄せられた。



厚生連特定・専門・認定看護師部門応援プログラム

専門・認定看護師の育成と活用について



日本赤十字社 徳島赤十字病院
Japanese Red Cross Society

2025年3月11日(火)
庄野 まゆみ

1

日本赤十字社 徳島赤十字病院看護部長 庄野 まゆみ 氏

令和6年度特定看護師部門、認定・専門看護師部門応援プログラム



特定行為看護師の養成の経過と活躍

JA長野厚生連富士見高原医療福祉センター
統括看護部長 西村妙子

JA長野厚生連 富士見高原医療福祉センター統括看護部長 西村 妙子 氏

ともに、守り
JA愛知



特定行為研修修了生の 活用をどうする？

JA愛知厚生連 江南厚生病院
看護部長 片田 仁美

JA愛知厚生連 江南厚生病院看護部長 片田 仁美 氏

内部統制と監事の役割について等について研修

常勤監事セミナーを開催

本会は3月12日常勤監事セミナーをJA全厚連会議室で開催（WEB併催）し、18厚生連から24名が参加した。

本セミナーは、厚生事業に係る監査の情報の取得、厚生連常勤監事間の情報共有を目的としており、今年度は「厚生連の現状と常例検査指摘事項への対応について」、「内部統制と監事の役割について」及び「病院監査における留意事項について」をテーマに開催した。

「厚生連の現状と常例検査指摘事項への対応について」は、JA全厚連 事業運営支援グループ 戸村課長より報告を行った。

続いて、「内部統制と監事の役割について」と題して、中村 義則氏（JA全中 経営対策部 内部統制対策課 課長）が講演を行った。

中村氏は、内部統制システム構築の必要性のほか、監事が担うべき役割等についてJAグループの監事の取組み事例をふまえて説明した。

参加者からは、「3線モデルの重要性を再確認した。監査の視点から自主検査の精度向上に努めたい」等の感想が寄せられた。

その後、有限責任監査法人トーマツが「病院監査における留意事項について」について講演を行った。

講演では、病院で実際に発生した不祥事から、病院監査の際に注意して確認すべき点について説明いただいた。

参加者からは、「リスク管理重視の経営となるよう監査の立場から貢献していきたい」「事例に基づく講演なので参考になりました」等の感想が寄せられた。

講演の後には、現地での参加者は「監事監査の年間実施状況、監事監査調書および内部統制システムに係る監事監査の対応」などについて情報交換を行った。



研修のようす



防災訓練を行いました

(JA秋田厚生連・平鹿総合病院)

2月13日、震度6強の地震が発生し建物の一部が損壊、二次災害として火災が発生した想定で防災訓練を行いました。

訓練は、発生後の①初動対応と安全確認、②火災発生時の消火器を使用した初期消火対応と自衛消火隊による2号消火栓の模擬訓練、③建物損壊による避難判断と患者避難誘導の3点を病棟看護師中心に行いました。

また、今回は災害対策本部を設置し、各部署から提出された被災状況報告書による状況把握や、被災状況および二次災害に対する対応・避難指示、更にはBCP（事業継続計画）に基づくライフラインおよびインフラ状況から割り出される病院機能の維持・継続判断を行う本部要員の訓練も合わせて実施しました。

参加者からは「訓練したことで自分が何をしたら良いのかが明確になった」「東日本大震災の時は学生で災害対応へのイメージが出来なかったが、訓練を通して患者さんの避難誘導の大変さと各部署の協力の必要性を強く感じた」などの声が寄せられました。

訓練後、消防署職員からの講評では「実災害に近い訓練であり、病棟スタッフやその他職員の報告・連絡・対処・連携が良く取れていた。災害本部も判断・指揮命令と日頃から災害に対する準備が出来ていると感じた」と評価していただきました。

災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ全職員が安全かつ的確に動けるよう日頃から訓練を重ね、今後も患者さんが安心して療養できる病院を目指して参ります。



防災訓練の様子

(淡路明美通信員)

ペイシエントハラスメント対策について

(JA秋田厚生連)

医療現場における患者・家族等からの暴言・暴力、セクハラ等のハラスメント（以下、ペイシエントハラスメントという）対策は、医療従事者の離職防止、勤務環境改善の観点からも大変重視されてきています。

また、医療分野における労災認定事案のなかで、患者からの暴言・暴力やハラスメントによるストレスが要因となった看護職員の精神障害の事案も多くあげられています。

こうした中で、当会では職員等の人権及び就業環境を著しく害する患者・家族等に対し、毅然とした態度で対応するため、ペイシエントハラスメントに対する基本方針のもと、令和6年10月に「ペイシエントハラスメント対応マニュアル」を策定いたしました。

同マニュアルは、当該職員が適切に判断し対処できるよう、三部で構成されており、一部では、ペイシエントハラスメントの判断基準や、対策の必要性、二部では、その対策の具体的な行動を示す取組みや、医療従事者等への教育・研修等、三部では、対策の三本柱として、①組織的に対応し、②医師法における応召義務に過剰に反応せず、③警察への相談、通報をためらわず行うとした内容となっています。

今後はペイシエントハラスメントに関する研修会を開催し、マニュアルの浸透と着実に対応するよう職員等へ周知するとともに、病院で働く全ての職員や患者家族の人権の尊重と、安心して快適な利用環境の確保に努めてまいります。

患者の皆さんへ 医療の安心、安全を守るためのお願い

当院では次のような迷惑行為があった場合、診療をお断りする場合があります。患者さん、患者家族のみなさん及び職員の安全を守り、診療を円滑に行うため、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。



迷惑行為に対して以下の対応を行う場合があります

- ・退去を要請することがあります
- ・院内への立ち入りや、今後の診療をお断りすることがあります
- ・損害賠償を請求することがあります
- ・悪質な場合は、警察への通報、被害届や告訴することがあります

よろしくお願いします



STOP

秋田県厚生連

行方地域における医療講演会開催

(JA茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

急激な高齢化や医療従事者の不足等により、地域医療の維持・確保が大きな問題となっている茨城県行方市で、「行方地域における医療講演会（主催：行方市）」が開催されました。

講演会では、茨城県医療政策課長 江寺広行氏、潮来保健所長 緒方剛氏から茨城県内や鹿行医療圏の医療情勢について報告の後、茨城県厚生連 稲田英章理事、土浦協同病院なめがた地域医療センター 清水純一病院長らが登壇し、「医療を取り巻く環境の変化と持続可能な医療の提供について」と題したディスカッション形式の講演がありました。地域医療の問題を解決するため、行政との協働や関連機関との連携をはじめ、地域住民の理解を深めることがこの講演会の狙いです。

稲田理事から「土浦協同病院附属看護専門学校では、看護師国家試験合格率は、ほぼ100%を誇っている。」との説明があったほか、「現在の診療報酬制度は病院運営にとって非常に厳しいが公的病院として不採算であっても医療をやめる訳にはいかない。」との問題提起がされ、清水病院長も「鹿行地域の医師不足は大きな問題。厚生連全体でのバックアップが必要。」との見解を示し、新たな取り組みとして「市営による休日診療所を開設するための協議を始めた。」との報告がありました。講演には、会場が満席となる100名を超える住民が興味深く耳を傾けました。

茨城県厚生連と行方市は、2023年12月に「地域医療連携協定」を締結しており、持続可能な診療体制を提供できるよう今後も協議を重ねながら地域医療を守っていきます。



ディスカッションの様子(画像提供:行方市政策秘書課)
茨城県厚生連 稲田英章理事(左)と
土浦協同病院なめがた地域医療センター 清水純一病院長(右)

(先崎理恵通信員)

フェアで健康相談

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連は、3月1日・2日の2日間、全農いばらき農機総合センター特設会場で開催された「第26回 春期農機・生産資材大展示会スプリングフェア2025」に参加しました。

フェアでは、健康相談と血圧測定を実施。天気は両日とも快晴となり、家族連れも多く来場し賑やかな雰囲気の中、2日間合わせて130人がブースに集まりました。

相談を受けた方からは、「健康について気になっていたことを専門家に直接聞いて安心した」「日頃の生活習慣を見直すきっかけになった」といった声が聞かれました。

参加したスタッフは、「地域の皆さんが健康を意識するきっかけになれば嬉しい。今後もこのような機会を設けて地域の健康づくりを支援していきたい」と話しました。



血圧測定をする来場者



健康相談を行うスタッフ

(先崎理恵通信員)

医療従事者を激励

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

JA茨城県厚生連の運営する茨城西南医療センター病院（上杉雅文病院長）は、医療現場の人手不足解消やグローバル化への対応等を目的に、特定技能外国人の受け入れを開始しました。今回は看護補助者としてバングラディッシュから2人が来日し、3月3日から勤務を始めています。

特定技能制度は、一定の技能と日本語能力を持つ外国人が日本で就労できる仕組み。同病院では今後、特定技能外国人に病棟での患者の食事や入浴の介助、移動補助などを担当してもらう予定です。

上杉雅文病院長は「バングラディッシュからお越しいただき非常にありがたい。人手不足解消もさることながら、当院は外国人の患者様が多い地域であるため、病院との橋渡し役としても期待している。」と話しました。

同病院では、まずは特定技能外国人のための研修や支援体制を確立しながら、多文化共生の職場づくりを進める考えです。



左より 飯塚真弓看護部長、特定技能外国人(2名)、上杉雅文病院長、佐藤稔事務部長

(先崎理恵通信員)

第50期生が卒業

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校)

JA茨城県厚生連が運営する土浦協同病院附属看護専門学校(渡部誠一学校長)は、3月7日、第50期生56名の卒業式を挙行了しました。

連日の雨天は嘘のように、当日は卒業生たちの門出を祝うかのような晴天に恵まれました。保護者や来賓の方々に見守られ、和やかな雰囲気にも包まれながら式典が行われました。

渡部誠一学校長は「3年間ここで学んだことを現場で発揮し、立派な医療人になって欲しい」と式辞を述べました。

卒業生代表は、「新たな場所で看護師としての道を歩み始めるにあたり、看護実践を通して得た自己の看護観を忘れずに向上心を持ち続け、より一層努力していきたい」と答辞を述べました。

閉式後には、卒業生から保護者へ、また教員から卒業生へのサプライズ動画が上映されるなど、開場が涙ぐむ場面もみられました。

今回を含め、同校の卒業生は3,497名。JA茨城県厚生連は、これから変わりゆく時代の中でも、常に地域貢献できる看護師を一人でも多く輩出できるよう教育環境の充実に取り組んでまいります。



答辞を述べている卒業生代表者

(先崎理恵通信員)

大規模災害訓練を行いました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では2月22日に多摩西部で震度6強を想定とした大規模災害訓練を実施しました。

被害状況の確認・報告訓練と机上訓練に基づいた災害対策本部及び各エリアの訓練を行いました。自然災害が増えている中、訓練を行う事で災害への備えや知識を高め、有事の際に対応できるよう技術、知識を磨いてまいります。



訓練の様子

(増田佳一通信員)

事務部発表会

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院(渋谷明隆病院長)では2月26日に事務部発表会が行われました。

今回の発表会では、入職1年目から5年目までの職員が主体となり、それぞれの業務や成果について発表しました。発表内容は多岐にわたり、日々の業務改善案や学んだことなど、非常に充実したものでした。今後も、事務職員のスキルアップ・若手職員の成長を支援する取り組みを継続的に実施し、職員間の交流と業務の質の向上を目指してまいります。



発表会の様子

(増田佳一通信員)

第61回 市民健康教育公開講座を開催します

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

『下肢閉塞性動脈硬化症のおはなし』をテーマに、循環器センター循環器内科 坂本医師よりご講演をいただきます。

オンライン開催となりますので、相模原協同病院公式 YouTube チャンネルからご視聴ください。

<相模原協同病院公式 YouTube チャンネル>

配信予定日：2025年4月3日（木）18:00～

<https://www.youtube.com/channel/UCdIFVuEdsBWJ5wCSIH-ScPg>

第61回
市民健康教育

下肢閉塞性動脈硬化症 のおはなし

講師
坂本 容規
相模原協同病院 循環器センター(循環器内科)

“あきらめていませんか？
その足の痛み、指の傷”

2025年 4/3 [木] 18:00 公開
講師：循環器センター 循環器内科 坂本 容規

オンライン開催/視聴無料
「相模原協同病院公式チャンネル」

主催/相模原協同病院
お問い合わせ/
相模原協同病院 企画情報課 TEL 042-761-6020

公式
ホームページ

相模原協同病院
SAGAMIHARA KYODO HOSPITAL

市民健康教育公開講座開催案内

(増田佳一通信員)

第39回市民公開講座を開催しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

3月8日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）にて第39回市民公開講座を開催しました。

今回は「腎臓のお話～あなたの腎臓を守るために～」をテーマに腎・透析内科副部長の田中寿絵先生が参加者75名に向けてお話をされました。前半では腎臓の働きと慢性腎臓病（CKD）について、後半ではCKDと生活習慣病、CKDの治療について主に解説がありました。CKDは自覚症状が乏しく症状が進行しないと疾患に気づき辛い点から、体調の変化を気にするだけでなく定期的に健康診断や血液検査を受けることの重要性を呼びかけました。

腎臓を守るための知識を深め、治療や予防への意識を高める有意義な講演となりました。



会場の様子

(増田佳一通信員)

第17回 保健福祉センター学術集会 開催

(JA神奈川県厚生連・保健福祉センター)

2月22日保健福祉センター学術集会を開催いたしました。

実行委員長の今井事務部長の開会の挨拶で始まり、全体で10演題、多くの職種から発表が行われました。質疑応答でも活発な意見交換があり、大盛況のうちに終了となりました。

保健福祉センターは県内に事業所が点在しているため、他事業所の状況を知る機会が多くありません。学術集会に参加した職員の日も輝いており、今回の機会をふまえ、さらに保健福祉センターが発展していくよう努めてまいります。



開会の挨拶



会場の様子



発表の様子



奨励賞受け渡しの様子

(増田佳一通信員)

JA全農長野県本部から福祉用車両を 寄贈いただきました

(JA長野厚生連)

3月5日にJA全農長野県本部において、福祉用車両の贈呈式が執り行われました。寄贈については平成20年度から続いており福祉用車両をはじめ、コロナ禍には感染防止対策としてマスクや手袋などの衛生材料を寄贈いただいています。

JA全農長野県本部の長谷川孝治本部長からは贈呈にあたって「福祉用車両を活用いただき、地域福祉の医療を支えてください」と挨拶されました。

また、JA長野厚生連の洞和彦代表理事理事長は「JAグループの一員として身に染みるご配慮いただいたことに感謝しています。訪問看護や介護施設等への送り迎えなどで利用いただけます。当会事業所は山間部含め事業展開をしていますが、寄贈いただいた車両を大切に使用させていただき、これからも業務に励みたいと思います」とお礼の言葉を述べ、目録を受けました。

福祉用車両はこれまで当会施設へ87台、令和6年度は6台寄贈いただきました。今後も皆さまへ安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



目録贈呈の様子(右から長谷川本部長、洞理事長)

(山岸愛通信員)

災害時訓練

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院（水野伸一病院長）では、2月13日、静岡市葵消防署の協力のもと、夜間火災を想定した火災訓練を行いました。

火災が発生した際の連絡通報・初期消火・入院患者の避難誘導など災害発生時の役割を再確認しました。避難誘導では、模擬患者が螺旋スロープやはしご車で避難しました。



訓練の様子

(望月俊宏通信員)

J A 静岡厚生連 看護専門学校 卒業式

(J A 静岡厚生連 浜松厚生看護専門学校・するが看護専門学校)

J A 静岡厚生連が運営する浜松厚生看護専門学校・するが看護専門学校で卒業式を行いました。3年間の課程を終えた卒業生は保護者や在校生が見守る中、卒業証書を受け取りました。

するが看護専門学校では中田昭子学校長が「理想の看護師になり、目標を持って日々取り組んで欲しい」と激励し、卒業生を代表して3年生の柴山奈那さんが「家族や先生、先輩の支えとクラスの仲間がいたから困難な道も乗り越えることができた」と答辞を述べました。また、3年間を通して優秀な成績を残した学生に対し優秀賞の表彰も行いました。

両校の卒業生は本会の運営する関連病院で、看護師として新たな一步を踏み出します。



浜松厚生看護専門学校 卒業式



するが看護専門学校 卒業式

(望月俊宏通信員)

「健やかな幸せづくり」をサポート 『JA健康フォーラム2025 開催』

(JA愛媛厚生連)

2月25日、松前総合文化センター広域学習ホールにおいて「JA健康フォーラム2025」を開催しました。

各農業協同組合、JAえひめ女性組織協議会、JA愛媛厚生連が主催した同フォーラムには、JA女性部の皆さまをはじめ、JA青壮年部、市町、県関係者ら300名余りが参加しました。

『学ぼう五大栄養素☆見直そう生活習慣～健診でリセット～体は食から作られる！おいしく食べて動ける体へ』をテーマに掲げた同フォーラムでは、

松山東雲短期大学食物栄養学科 学科長 田中 洋子氏を講師に迎え、「人は食で作られる。食で未来を変えてゆく。」と題した学習・研修会を行いました。

田中氏は、5大栄養素のはたらきや健康的な食生活を実現することを目指して1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを一目で分かりやすく示した食事バランスガイドを用い、日常生活で活用するためのポイントを紹介するなど、参加者らは熱心に聞き入っていました。

その後、JAえひめ南女性部 田中 美鶴さんの体験発表、また毎年会場を盛大に盛り上げるJA女性部企画のアトラクションが行われ、見どころ満載のステージとなりました。



開会挨拶を行う西本経営管理委員会会長



JA女性部企画:アトラクションの様子

続いて行われた厚生連企画では、落語家 林家 染太氏による「笑う門には福来る～笑いは健康の源～」と題した落語が行われ、その軽快なお話に会場全体が笑顔に包まれ、“笑いは健康の源” その言葉どおり、笑顔の大切さを再確認しました。

最後は、MaiYoga 代表 Maiko 氏による健康体操「女性必見！いつまでも若々しく美しさを保つカラダ作り」を参加者全員で行い、心身ともにリフレッシュしました。

半日を通して開催された同フォーラムは、一人一人が健康管理を正しく実践できるよう「健やかな幸せづくり」をサポートする機会となりました。

(八竹典子通信員)

九州地区厚生連共励会の開催

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、3月4日に「令和6年度九州地区厚生連共励会」を開催し、大分県・鹿児島県・熊本県の厚生連から26名が参加した。

同会では、はじめに全国厚生連滝沢部長より、厚生連の現状や中央情勢について報告後、各県厚生連から令和6年度事業実績(見込)および令和7年度事業計画(案)について報告を行った。

その後、分科会では「管理・事務・推進」「保健・看護」「画像・検査」の3部門に分かれ、健診現場におけるマイナ保険証への対応やWEBシステム導入状況など各県の取り組みについて情報交換を行い非常に有意義な会となった。



主催者挨拶をする同連の西野良二常務



分科会の様子

(多久弘高通信員)

「健康経営優良法人 2025」認定

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、3月10日に経済産業省と日本健康会議が主催する健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人 2025 (中小規模法人部門)」に認定され、今回で3年連続の認定となる。

同連は、従業員の健康を資産と捉え、職場における健康づくりを戦略的に進めていく健康経営に賛同し、従業員の健診受診率100%、特定保健指導実施率100%、家族の健診受診率70%以上を目指すとともに、運動の習慣づけ、バランスの良い食習慣、禁煙、過重労働防止に取り組んでいる。

今後も健康経営を推進し、快適な職場環境づくりに努め、継続的な認定取得を目指していく。



認定証を手にする同連の西野良二常務



健康経営優良法人認定証

(多久弘高通信員)